

かまいり製玉緑茶用新品種「みねかおり」について

上野貞一・古野鶴吉(宮崎県総合農業試験場茶業支場)

Sadaichi UENO and Tsuruyoshi FURUNO : A Newly Registered Tea Cultivar
"Minekaori" Suitable for Pan-fired Tea

宮崎県総合農業試験場茶業支場(茶育種指定試験地)で育成された「宮崎3号」が、1988年5月に茶農林39号として登録され、「みねかおり」と命名され、かまいり製玉緑茶用として普及に移されることになったので、その来歴、育成経過、特性などについて報告する。本品種の育成にあたって、多大のご協力をいただいた関係機関の各位に、厚く謝意を表す。

1. 来歴及び育成経過

1966年に、良質で芽葉形質の優れる「やぶきた」を母とし、インド種、ソ連種の遺伝子導入による樹勢、耐病性強の「うんかい」を父として、交配を行った。'68年から個体選抜を行い、'72年から「Mi 74-41」の系比番号で栄養系比較試験に供試した。'78年以降「宮崎3号」の栄養系名で、栄養系適応性検定試験、特性検定試験及び関係府県の品種選定試験において、地域適応性などを検討してきた。

2. 特性の概要

樹姿は中間型で、株張りが優れる。成葉は、「やぶきた」並みの長だ円形、やや大形で、葉色はやや濃緑である。新葉の形、大きさとも「やぶきた」と同程度であるが、葉厚はやや厚く、百芽重はやや重い。

萌芽期、摘採期は、「やぶきた」より2日遅い中生種である。挿し木発根性は優れ、育苗が容易で、定植後の活着も良好である。樹勢が強く、幼木期の生育は旺盛で樹冠の形成が早く、成木になっても葉層が厚く、芽の伸びが良い。単位面積当たりの芽数はやや少なく、百芽重がやや大きい芽重型傾向を示す。生葉収量は、5～8年生、九州各県の平均で、「やぶきた」に比べ16～18%増収した。

品質は、煎茶に製造した場合は「やぶきた」とは一種異なる香味があって評価が低いのが、かまいり製玉緑茶に製造すると、芳香があって品質良好である。

耐寒性は、赤枯れ抵抗性は「やぶきた」並みの中、青枯れ抵抗性と裂傷型凍害抵抗性は「やぶきた」より1段改良されてやや強で、これらが複合して起る寒害には強い抵抗性を示す。耐病性は、炭そ病に対してはやや強、輪斑病に対しては中である。

3. 適地など

九州の中山間部、かまいり製玉緑茶生産地帯(熊本県、

大分県、宮崎県)への導入が予定されている。この地帯は、標高差が大きく、地形的にも寡照、高温のところが多く、耐寒性、耐病性が強化された安全性の高い良質品種の要望が強い。「みねかおり」は、耐寒性、耐病性が揃って比較的強く、地域適応性が高く、新芽の硬化が遅く、かまいり製玉緑茶として良質なので、この地帯における栽培の安定と品質向上に役立つものと考えられる。

4. 栽培、製造上の注意

栽培しやすく、諸特性が揃っているので、特に留意することはないが、株張りが良いのであまり密植しない方がよい。製品の色沢がやや黒みを帯びやすいので、いり葉の程度をややすめ、各工程の投入量を少なめにする。

第1表 「みねかおり」の特性(育成地及び九州各県の平均)

項目	みねかおり	やぶきた	かなやみどり	
一番茶萌芽期	+2日	0日	+3日	
生育	樹高 cm	62.5	68.2	65.8
	株張 cm	55.2	46.8	55.0
	生育概評	やや優	やや優	やや優
収量性	芽数	127.0	139.6	174.9
	百芽重 g	61.9	50.4	47.5
	一番茶収量指数	116	100	133
	夏茶収量指数	118	100	131
耐寒性	赤枯れ抵抗性	中	中	やや強
	青枯れ抵抗性	やや強	中	やや強
	裂傷型凍害程度	やや強	中	やや強
耐病性	炭そ病抵抗性	やや強	弱	中
	輪斑病抵抗性	中	弱	やや強

第2表 一番茶かまいり製玉緑茶品質
(熊本県茶試3年平均)

品種	形状	色沢	香り	水色	滋味	合計
みねかおり	16.7	16.7	18.2	19.3	18.8	89.2
たちほ	15.8	15.7	16.0	17.2	16.3	81.0
うんかい	17.0	16.7	19.3	18.7	18.0	89.7
やぶきた	17.5	17.3	16.5	18.3	17.2	86.8
かなやみどり	18.7	18.7	17.0	17.7	16.5	88.6